

財団法人熊本県ろう者福祉協会年表

年 (西暦)	月日	主 な 内 容
昭和22年 (1947年)	6月	5月、群馬県伊香保温泉で開かれた財団法人全日本ろうあ連盟創立準備会議に出席した当時八代市在住の中村松絵氏の呼びかけで「全熊本ローア協会(名称は当時のまま。以下同)」創立に向けて始動。
昭和23年 (1948年)	1月5日	第1回総会を以て「全熊本ローア協会」発足。初代会長 小柳茂。
	11月20日	※基本目標に「社会福祉法人化」と「熊本ろうあ会館の建築」を挙げる。 熊本県共同募金会に初の「熊本ろうあ会館建築」事業補助金交付申請を提出。 その後も何回か継続して提出。
昭和24年 (1949年)		
昭和25年 (1950年)	4月1日	身体障害者福祉法施行。
昭和26年 (1951年)	2月2日	木庭邦人(当時熊本聾学校教諭)氏宅にて「熊本ろうあ会館建築」事業について審議が深夜までもたれる。出席者は、松岡万洋(当時会長)、片山崙、森宏介、小柳茂、木庭邦人、小畑敏雄、以上6名。
	2月3日	前日(2日)審議結果を踏まえて、熊本県共同募金会に「熊本ろうあ会館建築」事業補助金交付申請を提出。(出席者上記の6名)
	2月11日	臨時総会開催。「熊本ろうあ会館建築」事業に関する案件を全会一致で可決。
	3月10日	「熊本ろうあ会館建築」の物件として、当時の熊本県球磨郡免田町字堀角、甲斐重穂(当時会員であった、球磨郡湯前町下里、稲森スミ子氏の実父)より木造瓦葺二階建て家屋の譲渡を正式承諾。
	3月31日	2月3日申請した「熊本ろうあ会館建築」事業熊本県共同募金補助金500,000円交付決定通知受領。
	4月6日	「熊本ろうあ会館建築」事業熊本県共同募金補助金500,000円受領。 代表出席者 小畑敏雄・木庭邦人。
	4月24日	球磨郡免田町字堀角 甲斐重穂氏より木造瓦葺家屋を譲り受ける。 譲渡金額300,000円
	6月27日	これにより甲斐重穂氏から譲り受けた家屋を解体し、熊本市出水町今937番地(現熊本市水前寺6丁目9番4号 熊本聴覚障害者総合福祉センター所在地)に移送。
	7月12日	「熊本ろうあ会館建築」地として、熊本市出水町今937番地(現熊本市水前寺6丁目9番4号 熊本聴覚障害者総合福祉センター所在地)の土地120坪(396m ²)所有権を獲得。土地購入費50,000円
	7月20日	熊本ろうあ会館建築起工式。施工主 一丸三知男氏(元常務理事 一丸貴史)
	11月30日	熊本ろうあ会館竣工落成式 ※熊本ろうあ会館にて落成式と祝賀会を行う。 (当時の事は別頁にあります)
昭和27年 (1952年)	8月20日	第3回九州聾啞者野球大会開催。(水前寺球場 途中豪雨により中止)
昭和28年 (1953年)		
昭和29年 (1954年)	5月2日	第5回九州ろうあ者野球大会開催。(県立熊本聾学校 県立熊本工業高校)
	"	第3回九州ろうあ者卓球大会開催。(県立熊本聾学校)
	5月3日	第5回九州ろうあ大会開催。(桜町 熊本自治会館)
昭和30年 (1955年)		
昭和31年 (1956年)	4月2日	第7回九州聾啞野球大会において熊本チーム優勝。(都城市姫城中学校)
	5月	全熊本ろうあ協会の法人化に向けての取り組みが始まる。 「社会福祉法人」か「財団法人」かで検討されたが、当時の事情から「財団法人」が妥当という熊本県当局の指導により、「熊本ろうあ会館」の建物とその土地、基本金預金それに什器備品を基本財産として「財団法人」とすることになった。
昭和32年 (1957年)	11月30日	「財団法人熊本県ろう者福祉協会」設立委員、泗水康哉・尾形速雄・木庭邦人 東 寿・中釜文代・小柳茂・中村松絵・藤本虎来・小畑敏雄・黒澤郁(以上10名)熊本県知事(当時 桜井三郎)あて「財団法人熊本県ろう者福祉協会」認可申請書を提出。

(財団法人熊本県ろう者福祉協会創立60周年記念誌「夢を求めて」から転載)

年 (西暦)	月日	主 な 内 容
昭和32年 (1957年)	12月24日	熊本県知事(当時 桜井三郎)より「財団法人熊本県ろう者福祉協会」認可書受領。
昭和33年 (1958年)	3月2日	第1回(発足)通常総会開催に向けて準備会議開催。
	4月1日	財団法人熊本県ろう者福祉協会として最初の熊本県共同募金補助金を受領。
	4月7日	熊本市出水町今(当時)、熊本県立熊本聾学校体育館において第1回通常総会を以て「財団法人熊本県ろう者福祉協会」発足。入会者280名。(正会員245名 準会員31名・他4名)初代理事長 藤本虎来。
	4月20日	財団法人発足後、初の理事会を熊本ろうあ会館において開催。
	5月18日	初の評議員会を熊本聾啞会館において開催。
	5月	「財団法人熊本県ろう者福祉協会野球部」結成。初代部長兼監督 中山昭人。
	7月3日～5日	ろうあ者授産施設設置計画推進のため九州三カ所(大分・北九州・福岡)障害者授産所視察を行う。(視察者 藤本虎来理事長・木庭邦人理事・黒沢郁理事)
	7月5日	「財団法人熊本県ろう者福祉協会野球部後援会」結成 初代会長 小柳茂。
	7月19日	熊本市民早起き野球大会に野球部初参加。
	10月5日	第1回会員慰安運動会を熊本聾学校で開催。(雨天のため体育館で行う)
昭和34年 (1959年)	4月7日	第2回通常総会開催。(県立熊本聾学校体育館 ミスコンテストあり) ※全九州ろうあ連盟長 土屋準一(故人)氏の出席有り。
	5月1日	「ローア界」第1号発売 1部30円
	7月2日	熊本県の熊本県立熊本聾学校会計監査実施に伴い法人も会計監査を受ける。
	8月7日	大家善一郎・大崎英夫両財団法人全日本ろうあ連盟副連盟長、巡回講演会で来熊。講演テーマは「ろうあ者の社会的活動について」。両氏は来熊した夜、熊本ろうあ会館に宿泊。
	9月7日	9月1日より施行された年金法について説明会を熊本支部主催で開催。 講師 熊本県年金課 浜崎幸男氏。
	10月3日	協会ニュースを会員へ300部発刊。(別頁写真参照)
	10月10日	中村松絵(八代在住)氏の呼びかけで婦人部創立の趣旨説明会が行われた。これにより準備委員会を設けて創立に向けて進めることになる。
昭和35年 (1960年)	1月	鹿本・荒尾・阿蘇支部等で新年会開催。役員の出席有り。
	4月1日	熊本県主催の身体障害者福祉週間の事業に参加。
	6月19日	熊本聾啞会館管理規定改正案を定例評議員会で可決。 黒田紀沙・木庭邦人両氏に管理人を委嘱する。
	12月28日	映画「名もなく貧しく美しく(松山善三監督 小林桂樹・高峯秀子主演)」の試写会が下通「大洋デパートホール(現ダイエー城屋)」で行われ、黒澤郁 木庭邦人、小柳茂、中山昭人、県立熊本聾学校生数人が出席。終了後、座談会で感想を述べる。
昭和36年 (1961年)	3月27日	第4回通常総会を県立聾学校で開催。ミス熊本ろうあコンテストは最後となる。
	8月	熊本県立熊本聾学校創立50周年(創立 明治44年《1911年》11月20日)事業に対する寄附金募金の協力を実施。実施にあたり10支部で説明の集会を開く。 ※記念式典は12月1日行われた。
	8月20日	婦人部創立準備委員会開催。 メンバーは、中村松絵、高木美智子(現藤井)、山崎芳子(現松崎)、安達初子。
	11月30日	熊本ろうあ会館創設10周年。
昭和37年 (1962年)	2月27日	青年部創立準備委員会開催。 メンバーは、松崎宏、内藤満夫、武末剛、福島与ら13名。 ※小畑敏雄常務理事の指導により創立趣旨書等必要書類作成作業を行う。
	4月23日	財団法人熊本県ろう者福祉協会青年部創立。 第1回総会を以て発足。初代会長 松崎宏。



(財団法人熊本県ろう者福祉協会創立60周年記念誌「夢を求めて」から転載)

年 (西暦)	月日	主 な 内 容
昭和37年 (1962年)	4月30日	熊本県身体障害者福祉週間(4月23日～30日)の福祉司の会合において、藤本虎来理事長、小畑敏雄常務理事、木庭邦人理事が出席して意見を述べる。
	10月7日	第4回会員慰安運動会を県立熊本豊学校で開催 ※会員「慰安運動会」名称の事業はこれが最後となり、代わって“地域活動育成委託事業(現生活行動訓練事業の前身)”による「体育大会」となる。
	12月6日	翌年(38年)第13回全九州ろうあ者大会開催事業の補助金を熊本県・熊本市に申請し補助金交付を受ける。 ※この実績が後に全九州ろうあ者大会開催事業に対する補助金交付の契機を築いた。
昭和38年 (1963年)	8月1日	第14回九州聾啞者野球大会開催。(熊本県営藤崎台球場)
	”	第12回九州聾啞者卓球大会開催。(県立第二高校)
	8月2日	第13回全九州聾啞者大会開催。(大洋百貨店文化ホール《現ダイエー》) ※手話通訳は、中村智恵子(中村松絵氏の実娘)。
昭和39年 (1964年)	5月9日	財団法人全日本ろうあ連盟評議員会に出席した一丸貴史、「我々に解る手話をしろ!」と要求発言をする。
	8月3日	第14回全九州ろうあ者大会(佐賀開催)において、藤本虎来理事長が大家善一郎財団法人全日本ろうあ連盟副連盟長に「全国ろうあ者大会熊本開催」の希望を申し出る。これが後に、昭和44年第18回全国ろうあ者大会開催の契機となった。
昭和40年 (1965年)	9月	熊本市ろう者福祉協会創立 初代会長 一丸貴史。 熊本県身体障害者体育大会始まる。 青年部の活動・熊本市ろう協会の創立等で組織の見直し検討が行われる。
	昭和41年 (1966年)	3月21日
昭和42年 (1967年)	4月3日	第9回通常総会開催。(長崎書店ホール) ※総会終了後、大崎英夫財団法人全日本ろうあ連盟副連盟長「世界ろう者スポーツ大会」をテーマに講演あり。このとき昭和44年度「第18回全国ろうあ者大会熊本開催の要請の話しあり。 ※協栄生命保険会社と共済制度締結。
	10月2日	従来の「会員慰安運動会」を生活活動育成委託による「体育大会」と事業名称を変更して開催(県立熊本豊学校校庭)
	6月7日	第16回全国ろうあ者大会(松山)において、第18回全国ろうあ者大会は昭和44年熊本で開催することを正式決定。
昭和43年 (1968年)	8月	財団法人全日本ろうあ連盟連盟長代理として大崎英夫副連盟長来熊して、昭和44年第18回全国ろうあ者大会開催を正式要請を受ける。
	10月	熊本県に要請した手話通訳者養成のための手話講習会を開催。(1回目)
	3月18日	評議員会で審議の結果、昭和44年、第18回全国ろうあ者大会熊本開催を正式決定。 これと同時に実行委員会を設置する。委員長に小畑敏雄理事長が就任。 ※この時点から、聴覚障害者による運営が軌道に乗り始める。
昭和44年 (1969年)	8月	聴覚障害者の自動車運転免許取得に係る署名、カンパ運動を実施。
	9月	熊本県に要請した手話通訳者養成のための手話講習会を開催。(2回目) (水道町 熊本県福祉会館・旧日赤センター 受講者20名 受講者の1人が村本宗和《前手話サークル「わかぎ」会長》)
	3月24日	上記手話講習会受講終了者による「手話サークル「わかぎ」創立。 初代会長 吉永けい子。 ※これが後に第18回全国ろうあ者大会開催において手話通訳等の活躍が評価される。新聞報道有り。
	3月	第18回全国ろうあ者大会観光バスガイド(産交バス・電鉄バス)への手話指導実施。 ※このあたりから、第18回全国ろうあ者大会実行委員会の主要役員、熊本ろうあ会館に宿泊して大会準備に専念。

(財団法人熊本県ろう者福祉協会創立60周年記念誌「夢を求めて」から転載)



年 (西暦)	月日	主 な 内 容
昭和44年 (1969年)	5月9日～14日	第19回全国ろうあ者大会開催。 ※初のJTBと提携した大会運営方式を導入。これが評価されこの方式が普及した。第19回全国ろうあ者大会南九州一周等5コースの観光。
	13日～15日	第19回全国ろうあ者大会終了後引き続き第3回全国ろうあ青年研究討論会開催。 (国立阿蘇青年の家)
昭和45年 (1970年)	10月	熊本県立熊本豊学校舎、熊本市出水町から東町の新築校舎の移転に伴い、黒田紀沙、木庭邦人(故人)両氏、熊本ろうあ会館管理人を辞任。
	11月	黒田紀沙・木庭邦人(故人)両氏の熊本ろうあ会館管理人辞任に伴う後任管理人に松永朗就任し、熊本ろうあ会館に常住。
	2月	第2回熊本県手話講習会開催。(水道町 熊本県福祉会館)
	4月	手話サークル「わかぎ」第一次再興。会長 浜崎美紀子。
	5月5日	厚生省(当時)の障害者社会参加促進事業(メニュー事業)による手話奉仕員養成事業全国一斉に始まる。
昭和46年 (1971年)	9月	第19回全国ろうあ者大会(東京 日比谷公会堂)時、聴覚障害者の自動車運転免許獲得等4本柱の要求国会デモに参加。
	9月	厚生省(当時)の障害者社会参加促進事業(メニュー事業)による手話奉仕員養成事業の手話講習会開催。(熊本県主催)
	4月11日	財団法人熊本県ろう者福祉協会婦人部創立 第1回総会を以て発足。 初代婦人部長 中村松絵。
	9月8日	熊本県聴覚障害者(児)親の会発足。初代会長 兼丸基夫氏。
	9月	熊本県身体障害者担当者研修会において手話講習を実施。(8日～10日3日間) ※この事業は昭和48年度まで行われた。
昭和47年 (1972年)	4月	厚生省(当時)の障害者社会参加促進事業(メニュー事業)による手話奉仕員事業の委託を受けて講習会実施。
	6月27日	障害者社会参加促進事業(メニュー事業)によるろうあ者日曜教室開催事業の委託を受け実施。
昭和48年 (1973年)	3月29日	熊本善意銀行より熊本ろうあ会館に座卓20脚の贈呈を受ける。
	3月31日	聴覚障害者自動車運転免許取得適正実施を松橋試験場と交渉。 任期限満に伴い小畑敏雄理事長辞任。



(財団法人熊本県ろう者福祉協会創立60周年記念誌「夢を求めて」から転載)

年 (西暦)	月日	主 な 内 容
昭和48年 (1973年)	4月1日	小畑敏雄理事長辞任による後任理事長に柳沢武典就任。 財団法人熊本県ろう者福祉協会老人部創立 第1回総会を以て発足。 初代老人部長 西村春雄。
	4月	自動車運転免許取得適正検査実施。 受験者70名と多いので、三班に分けて3日間実施。(旧長嶺町免許センター)
	8月15日	第10回全九州ろうあ者総合体育大会開催。(水前寺球場・水前寺陸上競技場)
	8月16日	第22回全九州ろうあ者大会開催。(郵便貯金会館ホール 現メルパルク)
	8月17日	※終了後、全九州ろうあ連盟長名で、「聴覚障害者センター建築」を含めた大会決議書を熊本県に提出。
昭和49年 (1974年)	2月	熊本ろうあ会館の耐久状況診断を専門家に依頼した結果、「耐久可能性なし。取り壊しが妥当」との診断回答。この回答を受けて理事会に諮り協議した結果、新しく建築する方針を固める。この方針を評議員会に諮り意見を求めた結果、新築することを決定。
	4月7日	第17回通常総会において、熊本ろうあ会館は老朽化したため取り壊し、新しく建築することを採択。
	4月7日	※この年から①会員の拡大と組織強化、②熊本ろうあ会館の改築、③手話通訳者の養成、を三大長期計画として打ち出す。 この決定を受けて、 ①会員の拡大と組織強化は、会員1人につき1名の入会者を勧誘する ②熊本ろうあ会館改築は、可能性を関係者と相談して指導を受ける ③手話通訳者養成は、手話奉仕員養成を中心に進めるとし、手話サークルの存在も無視できないので休会状態にあった手話サークル「わかぎ」の健全化を図るために、村本宗和氏に再興を要請し取り組む ものとして取り組んだ。
昭和50年 (1975年)	9月26日	手話サークル「わかぎ」第二次再興。会長に村本宗和氏就任。 次の目標として、県単位の組織作りをめざすことになった。
	4月6日	理事会及び評議員会の決定を経て、第18回通常総会で熊本ろうあ会館新築資金として「会員1人1口10,000円」とすることを決定。
	7月21日	財団法人熊本県ろう者福祉協会主催で、ろう教育問題懇談会を開催。 手話導入教育論と口話教育論に始終してまともならなかった。(熊本県福祉会館) ※昭和50年(1975年)度は、手話奉仕員養成事業を熊本市1所から玉名・八代人吉・天草、熊本市と会場を拡大した。このときの受講者に現活躍中の小野康二・梶原初子らの人材を輩出したので、これらを「花の50年組」と称している。
昭和51年 (1976年)	2月	老人部要望の男子70歳、女子65歳以上の高齢者は年度会費免除を理事会・評議員会で承認。
	4月1日	男子70歳、女子65歳以上高齢者の年度会費免除適用を開始。
	5月9日	3月31日逝去の財団法人全日本ろうあ連盟長 藤本敏文氏の財団法人全日本ろうあ連盟葬に財団法人熊本県ろう者福祉協会代表として松永朗理事参列。
昭和52年 (1977年)	2月21日	理事会の承認を経て、熊本ろうあ会館改築事業名称を「熊本聴覚障害者総合福祉センター建築事業」とすることを評議員会において承認。これにより「事業推進委員会」を設置して取り組む。
	6月12日	熊本県手話サークル「わかぎ」連絡協議会創立。第1回総会を以て発足。(熊本ろうあ会館) 初代会長 村本宗和氏。
	8月20日	熊本県ろう者交通安全協会創立。第1回総会を以て発足。 初代会長 内藤宣夫 試験にかかる学習指導を行う。
	10月8日	第7回全国ろうあ婦人集会を婦人部主管で開催。 (国立阿蘇青年の家 8日～10日 3日間)



(財団法人熊本県ろう者福祉協会創立60周年記念誌「夢を求めて」から転載)

年 (西暦)	月日	主 な 内 容
昭和52年 (1977年)	10月18日	全国ろうあ者体育大会第23回野球競技大会で本会野球部初優勝。(広島大会) ※九州ブロック大会優勝は数回有り。 
昭和53年 (1978年)	10月	熊本聴覚障害者総合福祉センター建築補助金交付申請書を熊本県・熊本市・財団法人日本船舶振興会にそれぞれ提出。
	3月	手話サークル「わかぎ」の強い後押しにより、初の耳の日記念事業を開催。 (鶴屋デパートサテライトホール 聴覚障害者への理解の啓発と手話落語上演 熊本市中央公民館地下ホール 財団法人全日本ろうあ連盟事務局長 竹島昭三郎氏の講演)
	6月18日	会員拡大と組織強化推進の一環として、第1回地域リーダー研修会を開催。 内容は主に財団法人全日本ろうあ連盟評議員会結果報告と地域の取り組み。
	6月29日	八代市において熊本県内初の手話通訳付き立会演説会開催。 担当通訳者 寺岡留美子。(現 松永章夫人)
	7月	第1回支部(地域)対抗ソフトボール大会開催。(長嶺 身障センターグラウンド)
	8月8日	熊本県身体障害者福祉団体連合会の組織改革に反対して財団法人熊本県ろう者福祉協会は脱会。
昭和54年 (1979年)	10月22日	熊本聴覚障害者総合福祉センター建築補助金交付申請書を熊本県・熊本市・財団法人日本船舶振興会にそれぞれ提出。
	3月	熊本市において熊本県選挙管理委員会主催による手話通訳付き熊本県知事選挙立会演説会開催。(千葉城 熊本県立図書館ホール)
	10月11日	熊本聴覚障害者総合福祉センター建築補助金交付を熊本県・熊本市に陳情。 熊本聴覚障害者総合福祉センター建築補助金交付申請書を熊本県・熊本市・財団法人日本船舶振興会にそれぞれ提出。
昭和55年 (1980年)	3月8日～9日	耳の日事業として、松山善三監督、坂本九、大谷直子主演の「泣きながら笑う日」を千葉城町熊本県立図書館ホールで上映。
	4月1日	大同生命保険相互株式会社九州支社と共済協力を始める。
	6月1日	手話通訳設置事業開始。 設置場所 熊本県庁ロビー受付。 手話通訳者 前田洋子。(現 東)
	8月14日	第17回全九州ろうあ者総合体育大会開催。(水前寺球場・熊本県立熊本工業高校球場他)
	8月15日	第29回全九州ろうあ者大会開催。(郵便貯金会館ホール 現メルパルク)
	10月	全国ろうあ者体育大会第26回野球競技大会で本会野球部2度目の優勝。(名古屋大会)
	11月14日	熊本県手話サークル「わかぎ」厚生大臣賞受賞。 

(財団法人熊本県ろう者福祉協会創立60周年記念誌「夢を求めて」から転載)

年 (西暦)	月日	主 な 内 容	
昭和56年 (1981年)	4月1日	会誌「熊ろう福祉」再刊開始。	
	6月17日	本会顧問 杉村国夫熊本県議会議員の紹介を得て、幸山繁信熊本県議会議長に財団法人全日本ろうあ連盟より依頼があった、①手話通訳制度化、②文字多重放送の早期実用化、③一般テレビに字幕及び手話通訳挿入 を熊本県議会で採択し国へ要望書を提出するよう陳情を行う。	
	7月3日	熊本県議会厚生労働委員会(委員長 増田英夫)において上記要望について説明を求められ、杉村国夫議員の同伴で松永朗理事が説明に立つ。(通訳、故兼丸基夫)本会顧問 松野頼三衆議院議員と土屋準一(故人)財団法人全日本ろうあ連盟長の紹介を得て、当時の厚生省社会局長山下真臣氏(荒尾出身)に会い、熊本聴覚障害者総合福祉センター建築についてを説明し、協力を要請。	
	7月4日	同行者、熊本県障害福祉課長古木幸雄、柳沢武典理事長、松永朗理事、手話通訳村本宗和、松野頼三秘書の4名。	
	9月16日	熊本県障害福祉課長古木幸雄氏らの出席のもと、熊本聴覚障害者総合福祉センター建築計画について最終決定を行う合同委員会を開催。三階建てにするか、管理運営費節約等を考えた二階建てにするかで深夜までもめたが、理事長の判断で鉄筋コンクリート二階建てに決定。	
	9月21日	6月17日、熊本県議会で陳情した三項目について、熊本県議会は採択し国に要望書提出した旨連絡を受領。直ちに財団法人全日本ろうあ連盟に報告する。	
	9月30日	財団法人日本船舶振興会に熊本聴覚障害者総合福祉センター建築工事費補助金交付申請書を提出。提出同行者、熊本県障害福祉課長古木幸雄、柳沢武典理事長、松永朗理事、手話通訳村本宗和。	
	11月21日	※後に老巧化した熊本ろうあ会館の写真を送付。 第15回全国ろうあ青年研究討論会開催(二度目 国立阿蘇青年の家 約400名参加)※熊本聴覚障害者総合福祉センター建築へのカンパあり	
	12月24日	第1回デフ・パペットシアターひとみ熊本公演実施(鶴屋ホール) 公演は「赤い椿の物語 ごんぎつね」	
	昭和57年 (1982年)	3月31日	柳沢武典理事長任期満了により辞任。後任理事長に松永朗就任
		4月1日	柳沢武典理事長辞任に伴う後任理事長に松永朗就任
		4月9日	財団法人日本船舶振興会より熊本聴覚障害者総合福祉センター建築工事費補助金交付正式決定通知書受領 熊本県の担当者を招いて、進め方や注意など学習会を開き、手続きを行う。
		7月1日	熊本聴覚障害者総合福祉センター建築工事開始に伴い、熊本ろうあ会館は解体するので、財団法人熊本ろうあ者福祉協会事務所を熊本市長嶺南、熊本県身体障害者福祉センターに移し、仮事務所を設置。
7月7日		熊本県の熊本聴覚障害者総合福祉センター建築工事費補助金交付に絡み熊本県身体障害者福祉団体連合会に再加入。	
7月3日		熊本ろうあ会館解体工事。	
8月4日		熊本聴覚障害者総合福祉センター建築工事起工式施行。	
10月	熊本聴覚障害者総合福祉センター事業について手話サークル「わかぎ」代表者らと協議の結果、 ①情報文化センター事業 ②手話通訳派遣センター ③ろうあ者生活相談 の三項目を決定。直ちに熊本県・熊本市に報告し、事業補助金を陳情する。 ※①情報文化センター事業のみ補助金交付の対象となる。		



年 (西暦)	月日	主 な 内 容
昭和58年 (1983年)	3月20日	熊本聴覚障害者総合福祉センター竣工。 仮事務所から移転。
	4月1日	熊本聴覚障害者総合福祉センター落成式実施。(細川護熙知事出席) ※落成パーティーに沢田一精前知事来所。
		
	4月2日	熊本聴覚障害者総合福祉センター営業開始。
	5月20日	熊本聴覚障害者総合福祉センター落成記念事業として、支部対抗バレーボール大会を実施。この好評により後に支部対抗バレーボール大会開催の契機となる。
	5月28日	熊本聴覚障害者総合福祉センター竣工及び建築工事事業報告を承認し推進委員会を解散。
	6月13日	手話通訳派遣事業委託となる
	7月1日	情報文化センター事業開始。小野康二を常勤の専従職員として採用
	7月20日	手話対策委員会設置。 会員拡大と熊本聴覚障害者総合福祉センター機能拡大のため難聴者グループ代表を招き話し合いをするも成果なし。
昭和59年 (1984年)	10月20日	身体障害者福祉法等の改正を求める国会請願の署名・カンパ運動を実施。 署名数3,473名、カンパ646,650円
	3月12日	第1回財団法人熊本県ろう者福祉協会手話通訳者認定試験を実施。(2日間)
	5月7日	手話奉仕員養成事業(県の委託事業)の講習方法を「前期」・「後期」に区分して実施。
	9月23日	第33回全九州ろうあ者大会開催。(熊本県立劇場演劇ホール 参加者903名)
	11月1日	熊本県手話通訳設置事業財団法人熊本県ろう者福祉協会委託となる。
昭和60年 (1985年)	1月2日	初の海外旅行を企画し実施。(台湾) (台北 JTB引率 手話通訳同行者小野康二 参加者32名 4日間)
		
	4月7日	身体障害者福祉法の改正された内容を通常総会で説明する。
	4月9日	熊本県共同募金より事業車両(軽ワゴン)の購入補助金800,000円を受ける。
	4月30日	熊本県共同募金補助金による事業車両(軽ワゴン)購入。
	10月1日	手話通訳制度化を願う「アイ・ラヴ パンプ」普及運動の取り組み開始。
	10月20日	全国手話通訳問題研究会支部にあたる「熊本県手話通訳問題研究会」創立。 第1回総会を以て発足。(聴障センター 初代会長 梶原初子)
	11月17日	第2回目のデフ・パペットシアターひとみの公演。(熊本郵便貯金会館ホール) (公演は「手手と手と手 遠野物語 昼夜2回公演) ※人吉市でも公演

(財団法人熊本県ろう者福祉協会創立60周年記念誌「夢を求めて」から転載)

年 (西暦)	月日	主 な 内 容
昭和61年 (1986年)	2月22日	火の国ライオンズクラブ、財団法人熊本県ろう者福祉協会に対するチャリティディナーショーを開催。
	3月10日	年金法の改正について説明会を県内4カ所。(熊本・玉名・八代・天草)で実施 講師は、上記4地域の社会保険事務所の担当官。
	〃	熊本県立天草豊学校寄宿舎の一部を天草ろうあ会館とすることについて交渉に 松永朗同行紹介協力者 池田定行(故人)熊本県議会議員。
	6月12日	衆・参両院選挙の政見放送に手話通訳を付けることについて、NHK熊本放送局 と交渉したが公選法と技術の問題で成果なし。 代わりに、県選管の協力により、情報文化センターで、放送された政見放送の ビデオに字幕と手話通訳を付けるビデオに作り替えて、地域(支部)で「字幕、 手話通訳付き政見放送を見る会」を実施した。
	6月12日	第35回全国ろうあ者大会(宮崎大会)の決議をふまえて手話通訳制度化を願う「 アイ・ラヴ パンプ普及活動」について、学習会と研修会を数回開催する。 この結果の一つとして、現行の熊本県単独の手話通訳者派遣事業予算では不足 が著しく、聴障者のニーズに応えられない等を理由として、「手話通訳派遣セ ンター設置」の構想をあげ、熊本県と熊本市、荒尾市、玉名市、八代市に手話通 訳者派遣事業の実施を陳情する。同時に、聴障者生活相談事業についても陳情 した。
	8月31日	ろう者交通安全協会会員、道路の空きカン清掃奉仕実施。
	11月12日	熊本市長選挙立候補予定者を招き、「手話通訳付き政策を聞く会」を開催。 (熊本県福祉会館) ※このことを県民テレビ(KKT)が取材して、11月21日、「ズームイン朝」(日 本テレビ系)で聴障者の参政権問題として放送された。
	11月28日	熊本善意銀行より情報文化センターに文字放送用アダプターの寄贈を受ける。
	11月22日	聴障センターで情報文化センター事業として、文字放送を観る会を公開実施
	12月3日	上記の状況をNHKが取材し、にニュースとして放送。
昭和62年 (1987年)	1月20日	熊本県知事選挙の政見放送に手話通訳付きと字幕付きを熊本県選挙管理委員会 とNHK熊本放送局に訴えるも、現行の公選法を楯に訴えを承諾しないため、前回 同様情報文化センターで、放送された政見放送をビデオに撮り、これに手話通 訳と字幕を附加し、これを地域で見る会を実施。(投票は2月1日)
	2月20日	火の国ライオンズクラブ第2回目のチャリティディナーショーより寄附金を賜る。
	3月1日	耳の日ふれあい開催事業県内1カ所開催から地域(支部)開催方式を開始。
昭和63年	7月	熊本善意銀行より聴障センター和室用座卓20脚贈呈を受ける。
	平成元年 (1989年)	3月21日
平成2年 (1990年)	3月	昭和62年度から情報文化センターが制作していた「ろう者のための手話による 日本語学習テキスト」ビデオ11巻完成。1セット40,000円で頒布開始。
平成3年 (1991年)	9月11日～16日	第26回全国ろうあ者体育大会開催。 (熊本市立体育館・熊本市陸上競技場・熊本県民運動公園等、親愛女学院協力)
	3月27日	聴覚障害者のための異文化コミュニケーションフォーラム開催。 熊本市立体育館。
	4月29日	天草支部創立20周年記念式典及び祝賀会。 記念誌発刊あり。




年 (西暦)	月日	主 な 内 容
平成3年 (1991年)	7月12日～14日	<p>第11回世界ろう者東京会議終了後、オーストラリアろう者劇団を招聘して公演。</p> 
	9月1日	熊本県聴覚障害者情報提供センター管理運営を熊本県聴覚障害者総合福祉センターで開始。
	12月10日	財団法人熊本県ろう者福祉協会厚生大臣表彰状を受ける。
		
平成4年 (1992年)	5月	モーターボートライセンス（四級小型船舶操縦士）試験受験奨励協力開始。
平成5年 (1993年)	11月1日	熊本県聴覚障害者情報提供センター熊本県障害者福祉センターでオープン。
	5月2日	第30回全九州ろうあ者体育大会開催。（熊本県民運動公園・熊本市立体育館）
	5月3日	第42回全九州ろうあ者大会（研修会）開催。（熊本市立青年会館）
	5月4日	第43回全九州ろうあ者大会（大会式典）開催。（メルパルクホール）
平成6年 (1994年)	9月22日～10月1日	米国福祉事情研修に内藤宣夫理事を派遣。難聴協の佐藤義晴氏参加。
	3月31日	熊本県立天草聾学校廃校。
	5月1日	熊本県立天草聾学校同窓生、熊本県立天草聾学校偲ぶ会開催。（生活訓練棟）
	9月22日	米国福祉事情研修に松本弘樹理事（当時）を派遣。（9/22～10/1）
	10月2日	現「盲ろう者夢の会」会長 畦池千代子氏参加。
		熊本市ろう者福祉協会（熊本支部）創立30周年記念式典及び祝賀会開催。 ※記念誌発刊あり。
		
平成7年 (1995年)	10月16日	第1回ウォークラリー開催。
	6月9日	熊本県阿蘇事務所職員、聴覚障害者理解学習開催の場で手話指導を行う。
	7月16日	熊本県やさしいまちづくり条例公布。
	8月25日～	米国モンタナ障害者自然環境保全協会招待による第1回モンタナ訪問。
	9月5日	聴覚障害者13名（含む難聴者1名）、手訳2名、要約1名、案内者1名 計17名
	10月2日	障害者の10年最終年記念知事と語ろう全国一周キャンペーン実施。 （熊本県は福島譲二知事に代わり魚住汎輝副知事対応 「夢」の色紙あり）

(財団法人熊本県ろう者福祉協会創立60周年記念誌「夢を求めて」から転載)

年 (西暦)	月日	主な内容
平成8年 (1996年)	6月2日	中央支部(当時「宇城」支部)創立20周年記念式典及び祝賀会。 ※記念誌発刊あり。
	8月2日	会誌「熊ろう福祉」三種郵便物認可を受ける。
	12月14日～15日	第6回全国字幕放送シンポジウムinくまもとを開催。(熊本県青年会館 他) 当シンポジウムにおいて、高岡正全難協理事長は、放送局に対してハガキ要望運動を提唱。
平成9年 (1997年)	4月1日	第35回全国障害者スポーツ熊本大会(ハートフル大会)ボランティア800名養成委嘱状授与式において。 
	4月5日	モンタナ一行13名(うちろう9名)招聘し交流を行う。熊本城・阿蘇等を案内。
平成10年 (1998年)	11月2日	財団法人熊本県ろう者福祉協会野球部創立30周年記念式典及び祝賀会。 ※記念誌発刊あり。
	11月1日～3日	熊本県聴覚障害者情報提供センター創設5周年記念行事開催。
	4月	熊本県障害者プラン5ヶ年計画施行。
	6月1日	ふれあいFAX熊本開始。
	7月10日	税理士の組織体(TKC)、九州本部創立20周年記念事業より寄附金を受ける。 ※記念講演に丸山浩路氏の講演あり。
	8月4日	ハートフル大会に向けて熊本県庁職員向け昼休みを利用した手話講習会に協力。 84名参加、平均20名を1組みとして4組みに分けて4～8名の講師で指導。
	9月5日	盲ろう者向け通訳・ガイドヘルパー養成事業の委託を受け実施。 (9月5日より10月24日まで8回開催)
平成11年 (1999年)	11月	熊本大学教育学部付属中学校、「豊かな創造性を育む授業」に手話指導を行う。 結果として、パネルを用いた手話にかかる研究の発表あり。
	3月7日	耳の日事業において「聴覚障害者の社会参加を制限する欠格条項早期改正」を求める署名カンパ運動を県内各地で実施。署名は目標の30,000筆を突破。 
平成11年 (1999年)	9月	熊本県議会、「聴覚障害者の社会参加を制限する欠格条項早期改正国会請願」を採択。熊本市議会も続いて採択。
	11月8日	第35回全国身体障害者スポーツ熊本大会開催協力(11/6～7 アクアドーム他)
平成12年 (2000年)	3月13日	手話通訳が付き熊本市議会開催。
	4月29日	第37回全九州ろうあ者体育大会開催。(熊本県民運動公園・熊本市立体育館他)
	4月30日	第49回全九州ろうあ者大会開催。(益城町グランメッセ)
	8月8日～	第2回目のモンタナ訪問。(12名うち健聴者1名 手話通訳者同行無し)
	15日	(第1回は障害者自然環境保全協会主催だが2回目はろう者が主催)

(財団法人熊本県ろう者福祉協会創立60周年記念誌「夢を求めて」から転載)

年 (西暦)	月日	主な内容
平成13年 (2001年)	3月1日 4月1日 9月～02年3月 11月	21世紀になったのを機に「耳の日ふれあい」県単独開催を再開。 支部組織を11支部から7支部に改革編成。 医療福祉事業団補助金により聴覚障害者ホームヘルパー(2級)13名養成。 熊本県立熊本聾学校創立90周年記念式典開催。 
平成14年 (2002年)	12月1日 4月1日 9月10日	12月1日 手話通訳者登録全国統一試験実施。(受験者64名) アジア・太平洋障害者の10年最終年。 4月1日 TBS系「ニュースの森」がリアルタイム字幕放送開始。 9月10日 秋篠宮ご夫妻、熊本県聴覚障害者情報提供センターにお成り。 聴覚障害者、盲ろう者の皆さんと手話により歓談される。身障センターの障害者も歓迎の参加あり。
平成15年 (2003年)	11月2日～ 3日 12月14日～16日 8月22日 ～24日	11月2日～3日 熊本県聴覚障害者情報提供センター創設10周年記念行事開催。 (記念講演・歌詩の手話コンテスト・抽選会等) 12月14日～16日 アートフォレスト絵画即売開催。 8月22日～24日 第36回全国手話通訳問題研究集会inくまもと開催。 (熊本県立劇場・熊本学園大学・阿蘇波野村他) 
平成16年 (2004年)	10月20日～ 10月27日～29日 5月15日 2月25日	10月20日～ 国立鹿児島障害者職業能力開発校委託による事務科(パソコン)訓練を20日の日程で実施。7名が受講し6名が修了。 10月27日～29日 JICA研修を受け入れ。アジア諸国より8名。 5月15日 第42回全九州ろうあ者スポーツ大会開催。(熊本県民運動公園・熊本市立体育館) 2月25日 字幕サークル「おむすび」、熊本県知事より「やさしいまちづくり賞」受賞。 

(財団法人熊本県ろう者福祉協会創立60周年記念誌「夢を求めて」から転載)

年 (西暦)	月日	主 内 容
平成17年 (2005年) 平成18年 (2006年)	6月 5月14日～15日 6月 4月1日 4月28日 6月4日 8月18日～20日	八代市議会傍聴席に手話通訳者配置決定。(八代「わかぎ」委託事業) 第42回全九州ろうあ者スポーツ大会開催。(県民運動公園・熊本市立体育館) 熊本県民共済より第1回目の寄附金を賜る。 障害者自立支援法施行される。 熊本県民共済より第2回目の寄附金を賜る。 中央支部創立30周年記念総会と祝賀会を開く  第18回ろう教育を考える全国討論集会inくまもと開催。 (熊本県立劇場・熊本学園大学・山都町清和高原他) 
平成18年 (2006年)	9月4日	熊本県共同募金運動60周年記念式典において「奉仕功労者」として会長表彰を受ける。 
平成19年 (2007年)	10月1日 9月15日 12月10日 3月4日	障害者自立支援法施行による手話通訳者・要約筆記者派遣事業開始される。 熊本高等技術訓練校委託のパソコン操作指導実施。 九州聴覚障害者団体連合会女性部創立30周年記念式典開催。(96名参加) 第30回目の「耳の日ふれあい」開催。(聴障センター)

(財団法人熊本県ろう者福祉協会創立60周年記念誌「夢を求めて」から転載)